



1) 2シーズン放牧:育成肥育方式には生時から出荷までのすべての期間を牛舎内で飼養する方式と、その間に放牧をとり入れる方式があるが、本試験では2回の放牧利用について検討した。

2) TDN(可消化総養分量):飼料の栄養化を示す単位。

3) NPN(非蛋白窒素化合物):牛は第一胃内微生物によって蛋白質でない窒素化合物も蛋白質に変えて利用できる。

4) 代償性成長:一般に動物は、ある時期に低栄養の処理を受けると成長が停滞するが低栄養の条件がとかれると普通以上の成長を示す。この現象を代償性成長と呼び、本試験の飼養方式での大きな柱としている。

5) ピートパルプペレット:ビートのしぼりかすを飼料として利用したもの。

6) 濃厚飼料主体の育成肥育:配合飼料を3.6~4t給与し、16~18か月齢、体重650kgで出荷する方式。

---

[目次へ戻る](#)